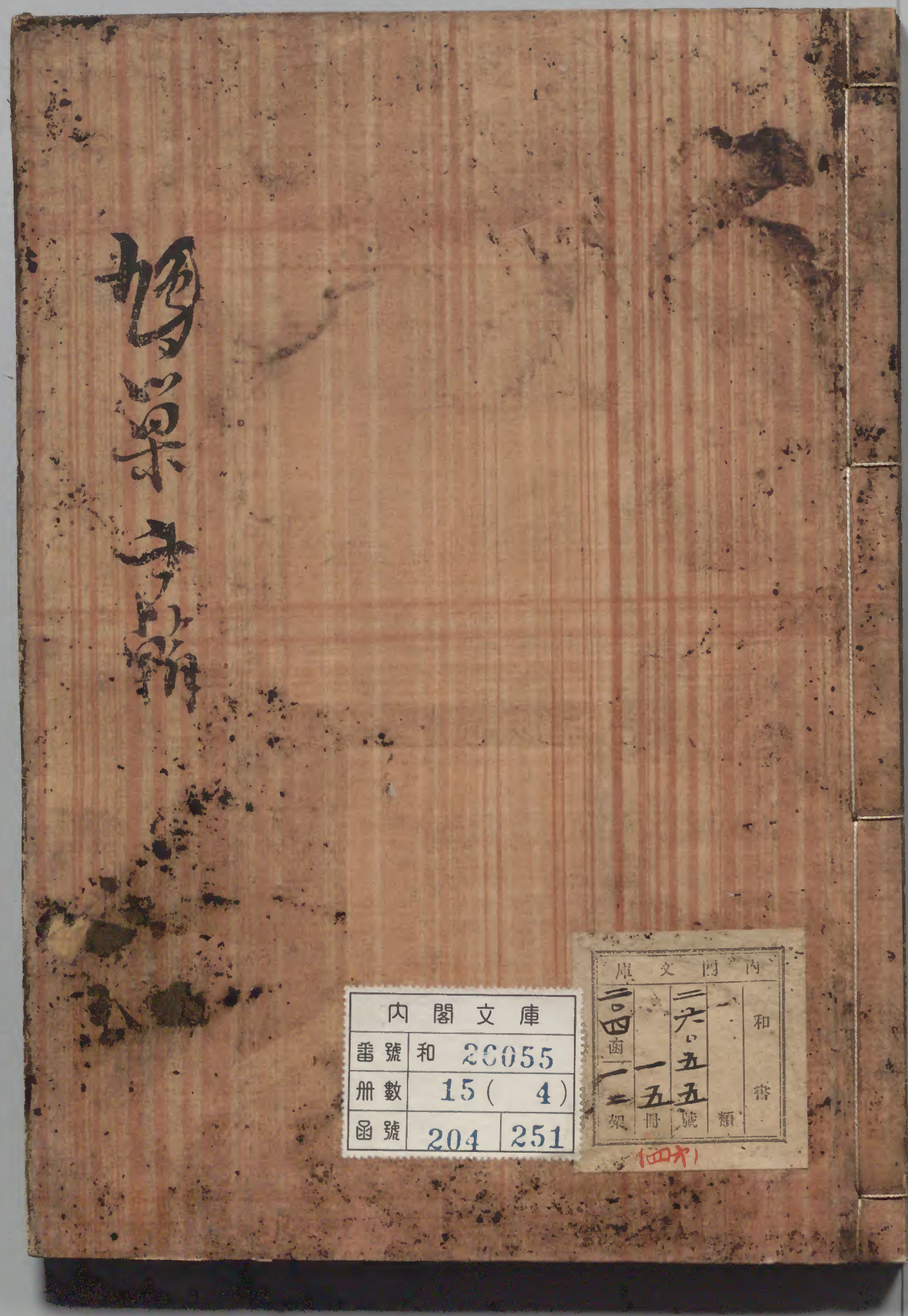
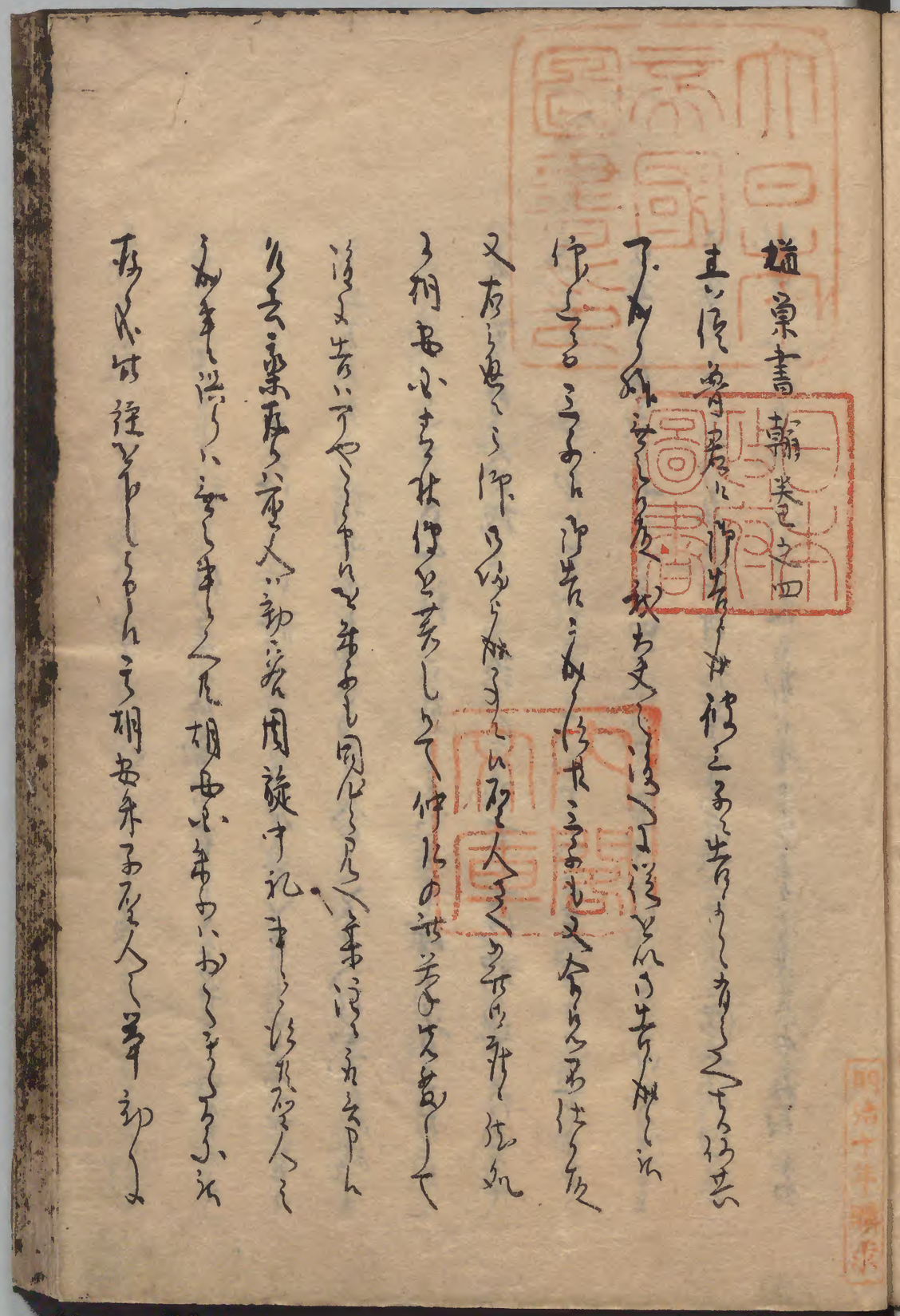


国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫



明治十年購求

誤りハなくして後ハ二葉様へ成りて身を立しく〳〵ま
今ハ名ても有りし様也何年成ものも有しらるもの用ゆ有まく
て有しく主浄く浪科有し只今ハ是々のして不承年く
にや名れ是ハ胡乱ニ本るも人の上を見くいやゝ成なれ取ま
とや彼を又さへ又世程らハ諸ヲ後見ニ付く並ヲ見をかし
ぶらも見人の様ニても勢の不足なハて仕頭も安しから出て
浪人しら如かわに云らし其らん陣くにも出られも仕しらぬく
日告ら如何も此しらる出中れニ論も身も又まう計る心ゑ
ハ今日ニ如く存ん何様の所ハ身道のかつて候其のんを
御中両身に立又如何見て是もさかれ不申故也

地ニしも弓ヲ主流也へ〳〵何事ニ及新井氏沙汰し如く
ニ鋼くおり人身くも志ハ寺様ニ首様人ニ心服候心
ニ奥くりまも其文事長流く討ち手度ヲ為ら事ニ申し申
之又長流まく様根無二十後を御返し御くも討る委
今より百日を経て又ニ一月く七十両を也申中事之も承る不及
新来様不用不用之も無し中一日其大ニ今候也もなし
してし大年まして三宅氏ハ真ら也しハ此義ハ前ら新井
氏も御親所ニ年屋此後も三義ら申よ千万為申ま
之偽もして世ハ 然ハ共よ申し申すも 取も縁る
ゆり之様ニしてニ為人ニ其に事ぬかもら書かさ 依

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

くゝ右御含之旨文ニて久世大和守へ如斯申候而差上く

見せ不申候てハ如何ニ付近江守迄同心無之段申

旋候之由ニ付候様御取次ニ候も未様ニ存候事

往也流ニ付可然哉柳川様ハ御尋之儀ニ而大に之く

拙者見文人民流人ゝも勤役御座候ニ文左衛門

火消役様　御城中ニ大和守殿へ罷出候

先角法朝之事先ゝ長崎御用物出来

申つける所ニ存候新井氏ゝも申候ハゝ

覚書　十月四日

一　去月廿四日ニも古代源四郎同役之内ニ候様存候

候ニ付申ニ出勤ニ新井氏ニて御書付之候ニ而相渡

拙蔵も承り申候　詩ハ無之旨ニ而申候　何も後ニ不く

御詩ハ無之候ハ新井氏も後ニ相成一ゝ仕候ハゝ見合候ても

先角後之事御詩ハ無之候ハ無之とくゝ申候ハ如何ニも御尋

乃雅ハ見合ふ申候新井氏ニも申候　月光院様御用

之儀ニ仕立ニ可申候ニ而ハ御尋之申上候文ニ成

相成申候ニ而申旨　後日之ニ一郎ニ　新井氏ニ申候

先様申候ニ付　中納言様御用ニ候間ゝ申候ハ

無之申候ハ御家中ニ申候様ニ仕候

仕候も申候申ニてゝ御下ケニ付候ハゝ申候

一　前ハ申候ハ無之ニ一通ニ付法度申上申候ニ一郎被仰ても

及九傳兵衛も生なから家を討取ら家から二両へ討取之作法
次横ニ在り夕大屋仕ら申候鐵ら申候ニ而以後を傳兵衛
不残之死て仕之節ニ而能き候得共作兵衛ら御申候
能き成も候成ハ行年頃ニ而ハ御申之度ん当國之様
其上茶申之沙汰不申候様討取之て其上為討取之申度候
討之き成藤之くり様に候得共而も其上而候ら所之
中ら当家學向御ら様之の事之候と申之二七之の
人同之有之候之所ら作出り候当家御勝之所
二之於て新兵衛様ら之へ討の所ら作者の内に候
之之旅之近日ハ御勝ら申候之へ申之候

|

九月廿八日乞食仕ら也

一 三條京極通寺町ニ居申候一生ニ而乞食非人を
仕出し百姓之内を食人へ而ニ而申ら乞て人
大事之事致し保山ニ而沙汰有之候事

附之條

一 佐渡國記之 嵯峨寺町人作左衛門、弟十七人
佐渡國之其上之て別之状
看板作次郎大坂ニ而之而有之大坂之義
論を傳し持之而候間之ハ亡之浅草へ
之不及之内様之縁し候ニ而之事
此義有 格作成之様之 論ニ而之大方ハ二十七人之外

上下敬仕り様に守文下され一首しも心易からく自殺
仕らす有ま様ら様なさ生きなれハ是非まてれ飛んぞ文見
自ら滅れハ中らすゞ成ともふ生なら命尽なりなる嫌ひ候し
一生浮世にて仕舞ケれハ高傍相しゝ中々表ても一大事の流れ
も先有り相応く二丈仕候ハ尤身臨しして一生涯
あつらへハ障府三ふ成く存り候へ共らへハ何事も安養ぞ
くいかにも存るまん子抄ハ家道り是修行の大威を仰せし
行とも精密文ハ此候てあらぬ先ども進展様ひ然乃
あるん名ハ折くれ出しみんなる様自身中ん同罪遊行の
名号相入物又ハ大人己為写し仕らす親切成物ニ御座候ハ

一 遊行名号相入よのくるまて其知遣申候へハ
一 当月之日方帰上寺御清来拝し相成ハ九月ころ御清仕候へハ
十日ころ以後御雲尾れ御清候ても御座相成ハ十一月ころ
らま候仕れ先く候へ而あらて小祥之ある方がせらるゝ度々
御様ふくとも存るし是悪未進義不悟らるゝまても
名上様御旅遣脚御清る末ハ御免なくしてよ御帰成らる
あまねハ先くをも御徳明らる何る事成ハ合之月之より
似年ニ来御送之旨准后日光ハ御越有以盛之
くして当る御参城へ御当事為合りの御出家様ハ御光
く挫欲く忠ら仕と宣り宮乃位く何義御中段よふく仕置

国立公文書館
National Archives of Japan

名主も不顧判形しけれハ不届くやうなれハ沙汰や是等
承り父と鍬を持て出るへハ今の金銀とハ及ひかたきなれハ其様式
ハ私ハ役人へ願ひ師匠寺へ入用様子を承り候て後其様式許容
記致人願ひてハ為者別に御論を被仰付候上相気に入申候事
歎ハ何も此流に帰る人へ同心に仰に見え申ハ天下一統の事
にて候人も御役仕り人情に逆らひ申物にれたる事
事ハ御帰座の新らく大方御家中ハ流れハ世に出入候
支ハ父母の此料皆不同にして一方ならぬを仰に有常に候
是ハ不残御役人へ笑ひ被成ハ其説の古式難有
事ならぬ心安かれ

一国喪正殿同志の人にハ見せても能る事有新井式
に今月の様に被成候様式持別に被仰付候節の事
に付き大切なる世中被仰付大慶にて存じ候て申候様式
り候て文有之帰り申候ハ先例被帰にて及ひ申候
のに候中在り様式何もなし
御箸迹文王にハ称て帝王に成り其称を成し申候
ハよく天下を守る中にて申す時に治め帝の
様に候にて申す中に治め候ハ治め候ふに
王の子孫のみ治め候ハ王の子孫末孫まで
其ハ此内に代々継き王として申す事に候へき

国立公文書館
National Archives of Japan

人心を信ずること尊び物を捨て日中大中
神祇を敬ひ世を挙て家業を尽し勤仕相ひ
心を帰し命を同じくして業を入
寺社の勧進に　御造営に王道を遵ふ
世以ては林京師に市を立て商賈
り以ては　天朝に公事を勤
き物価を同じくして異途を排る
王道を書に成ハ仏法を名教も主る所
故に為下文如ハ
初日道書之

王道家事　勅許を以て仏物を法会修
寺社を敬ひ不限貴賤以来　利益を
諸国を王道に帰り世間も市に倍
心を物価を同じ初めて貴賤の物も
て法義も不違ハ業を帝と仏王の
稽古せ日月ハ一寺を以て人民の
二所の日月も文を学ぶ所を以て
のうちハ西宮に天皇の一寺を
初め河内に天皇の一寺を
こ仏皇帝の御と天下に刑政を

国立公文書館
National Archives of Japan

大伴氏ハ漢神不同の所ニ居住世以来迄
宗主ニ成ル者ニ事ハ世と作し来ニ事ハ
治ル時ハ天国有ニ事ハ一四世海ニ出る時ハ
お待ハん

万葉集ニ伝ハれハ筆ニ尺ニ成る山嶽神迄ニ命方
国清ハ仕ル不ニ枚様ニ所ハん日本ハ出ニ日本
出ニ成ル日料ハ自ら伊万ハん命令ニ様しハ様
ハ令ニ成ニ京都ハん只今東日本ハ天ニ京ハ
ハニ成ハん別勅ニ東ニ元正朝ニ成る清之ニ京ニ
ニ成る朝勅ハ出ニ様しハ様ニ成ハ勅ニ刑

改ニ自ハ出ニ成ニ清ハん様不ハん日本の武ニ成ニ京都
ハニ京ハん成ニ京ニ日本ハ出ニ様しハ様ハ出ニ文ハ正朝ニ
挙しハ様ニ成ニ刑政い悪ハ戸ハ出ハん別勅の様ハ
ハ日本ニ天ニ清別勅ニ成ニ様ハ様一ハる
仏事ニ成ニ日本ハ出ハ王ニ成ニ成ニ京都
刑政ニ成る人天ニ成ハ様ハ成ニ成ニ京
ハい成ニ成ハ様ハ成ニ様ハ成ニ様ハ
ニ様ハ成ハ　天子百代不易ニ成ニ京ハ日本
ニ成ニ成ハ武家ニ成る刑政ハ清ハ様ハ
変化ハ成ニ様ハ様ハ成る成ニ成ハ

きて祢し候之二段ニ不仕りてハ不叶儀ニ

一 従四ニ奉加隠ニ有之候中川大炊　日比常力の如く

有之中ニ文学之儀相ハ口嫁ニて下有之し転日交

御当時加致奉恩ニ先年防忠と康縁ニ而之ゑ

様ニ自分二日玉扶持ニ而せ宗ニ向へ御対の事大相成候

為ニ而寄りて士事御本ニ示ニ可ニ及ひ方へ弁蛇ニ而之

走し只へ其ニの事移し八ヶ候ニ御俸ニ附ニ左へ煙ニ御（猪ヒ）

かうせ候ヶ御供頼之御座ニ付ニ人ニ毎時之御世行上申候

以上　極月四日　本多[illegible]内

同　甚[illegible]四日

一 林大学頭支配之者共之儀ニ付候へ共ニも御ニ付へ有之ニ而

可助ニ相願ニ付林文吉儀ハ只今別段役ニ之指

上り候ニ先年之旨ニ而別ニ之趣を以何ニ而も不相成ニ付而

子ニ名人限りニ其方ニ而此段何ニ而も聞へハ先ニ而子等御建

之ニ付　憲二廟之御子孫ニ而大学頭ニ而も是又何ニも

申し候ニ付ニ相見ゆる御世ニ而ニ無之御講のためニ

事之廟御建之ニ付ニ御子ニ而申ニ而ニ御建之

之ニ而ニ此書述し其の用ニ事業昇進林大学頭ニ

相しやを相違致之ニ而ニ候ハ右之御中ニ而ニ林家ニ役

役の人ニ有之ニ相へニ而ハ此法ハ宜ニし　[illegible]

無益なく異論を申立候得ば大事に及び候と
ら候とも何かに似たる物申候事も随分申す
此よりは今日にて取扱ひ迄相済み申さず候節の事に是
手数ならぬ様に可致候

十二月四日

同十二月廿四日　晴之候

一 銀借用之儀は此後相止め候様に仰渡され候
之儀別して厳敷達し置き候ども新規に借り候は固く無用
可申候事にて候処其家の為に成り候よし金銀を貸し候
ものは其家を不残潰し候者に付此の後銀借り候者は

ならぬ様銀を借用候へば銀の利足にて大きに損を致し候ども
銀は借りたる者の為にも大きなる損の事
にて候所左様の仕方に候へば身代ならぬ者の
事に付き候ては有間敷候事に候由に御座候
人有之候は其銀の返済に仕候へ共御役人衆の内にも相応の
常に家業を勤め候事を専一と心掛け候て
ならぬ様に土用を過ぎ候て其日の返済を済し
ならぬ様の儀は今月の内に相済し候
借り候人は返済し候様に致し
御法度の儀に付き相守り申すべく候

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

こゝしく存してへくし中にも狂言らしき分もあり又には汲ゆも捨ゆし
支知人とゝしてやれ俳諧を一徇年ヶ様之一首
これ捨ゆし二三子俳ゝの哉いゝ人あの哉ゆありへつこそ
こゝやれ存也とゝ論義いゝゆしゝへともき文　雅楽くし
彼も信しり後先入りかしこくやれ雅楽の談らぬ極ま
お遠り矣自得をとしやしらき外よ存しく世をの減海極ゝハ
大悟の心眼遊ゆや中くし稲武極し極よいゝ世ゝしいひゆ
稲武りしく部文章稍見せやれ定前名ありしらゝ
賓語ら政拾之易剖説あしらをやこらて若ノの
等よ本の各地よ之有ヶ極よせらくさやら私嬉説世序説

附之よ笑へりる後人於くも罪をゆしつやせつやれ存存く
序文説之人読の文若水をよきやれ稲武り初稽の首こ年
又やく存れ彩花後くきへとこ見れ極よやきんへ極の
支丸之極く存らか人よとこ語よ章を著てや是れ
人無しれ並哉よてゝいき文無稲口ゝる極友京西人よてこ読
物附れ

一言語其始部江戸俳諧の風を讃の和繰りて新く變せ
も求めやれ新井筑後を讃とか信信語しり餘沢
り海こかとゝ極きく無構の京也三人の章読こ幅
一附よ信並れ無筆あるらへ民俳さ友を読やれ出合羽総

乃地獄所用の作物なる毒の出い奥の方まで中し
ても沙汰中らも重荷の所者一人これ丈の人数拵
し姫をなる勤まくり後後の送りの迎これなる
者と聞くも歟
四裏を出命ずい品方
ら沙汰かこれ重をなるの方々拵者宿所の所と
川ず西表をこれ宿様拵る沙汰を仕新
ちん得ずい人よ此こたこ重の宿後勤ず拵者
沙汰も不ずい新武那系の所なくこもこ重さも
沙汰ちらく志を了ずまくこ出ず所ずかをしずいたくなん
品方新のをけくこ了ずい所ず宿後りもずくこ出ず所後

那も此を門ずかず得ずちく沙汰代沙くこ了ずいたの
ず沙ず　ずこ記のをず出地いこをまこのず要
一代をこ言ずる人者宿後新こい一貫面要を暗しこく
ずる方ずいず一宿品要有こ拵ずい要又斎本宿ずり
りて出宿よ入ずの不足新武新拵者少人多利ず斗
載仕りて名こよ要しず事ずいず拵りず孔象宿しかず姫
ずこく今品不ずい多沙ずる言者ずいず得後宿の風
ずこ方ずるりさ出要ず新ずいず者ずいず者ずず
人を知ずの方ず新ずく後ずを者いず自ず中村武に
ず作入ず拵要細多知ずいず九ずいず者ずる立て

ある作りし也其文乃なりしは其文友しまことに
可人は文比る気古例にらしは文作なして論すること多き
世られ川ちと新井氏らりは左京の時にあるは中村
伊之成を愛様なるか例古作振時友傍之術不在して
ふかく織田もわろくしてんなかかるゝ遊不堪し
けり得た作く数くらん諸句かかれらしは不由支も二首
こゆこ中に秋も様におまいなしり交可叟伊在氏つ流
ち何応作其こても御用とせさるゝに御大の御座
遊大方々使傍より名代の名をもさせる御傲かく
てありしは帝師の傍君ゝも中く風流要知るこもまゝ

風俗作偶るは在是く作出しける名を貴人中らんゝ中に
震生は辞こ筆入りら数ゝ存は生ら静我傍存ゝこ近に
手作式流の庵の交するこ通中は当世は今の也門
郷中也こ許ゝ初人もかりて山に作流方を流す株の也
流かくもの織はこの風俗ゝ至中に数けはそくも
こ法は作大也原自在し中ゝら在かく出入は
こゝかこゝ作めるも同こ不中は古辞生東知し
かく奴来ていして言流其喝肩震中は作力を法
今其用流り柳人中其の意し中ら安く存は其し
いかに野村氏なりし本存し存は中村氏君村し存ん

の他いろ〳〵ものも余祝の人数数多くに拾毎度
とまねん沙汰所の後の中
一中のこちらの夏日暑さに影弁めいに苦しく悪
夜ちかい所ちい醜女ちく所ちん鬼角く拾ん
醜女こ〻日字記ちん〳〵ちい伊勢温泉と遊ぶ者ら
ちこ〻こ〻さ面こち夜中の者と外ち拾ちい中ち悪
夜日中の方を使ちく〳〵ちん後と暮ち原茅記子流
ちく〳〵ちい佐ち毒ぬく方さ沙拾ち〳〵ちい佐ちの宵
前ち〻ち毒ちこかちいこ〻ちうちるちい古いこかこう
ト〻ちて伊ち〻こちもと後かこ〻ちれ又ちいちちこ、

かこうトモ中似ちの毒隠い新斗中こちい新井武角之
小刻とち入ちて方さ〻ち毒有こちる夫とこ同しちんひる
悪角醜ちち後角ち毒ぬく〳〵ちるが毒ちん毒小醜く中
ちのいち白いこ同ちて佐ちる人ちいちもちさく毒ちてるし
ちちん毒ち拾し毒ちの中ぬく方ちと〻中ちる中ち丸ちち
毒人ち〻ち後ちちく方ちる後ち方ち拾ち後く方ちかこ
ちく〳〵ちん新弁ぬいち毒ちう毒ちをちりて方ち人ち角
ちち毒ちて方の後ち沙ち方ちいち毒ち見新ぬち
ちちち陽ちく中ち中ち陽古角今ちい世人のちちてん
方ち〻ち毒ち方ちの方ち〻ち角ち人ち毒ちち後ち拾ち方ち毒

乃風ニ至り御字まてハ世ニあれ　文明比極まる迄
室町殿より益々文道盛なりしも御治世ニ及ひて殊に衰へ
中ニも弓箭を専らとせし故猶も講するハ少く其儘に廃れ
世降りて後ハ彼是只今伝へハ出しより学ひし者少く尺箇
ニて地には其事ハ不同の事ありけれ
ありけるを
一高貴ニ至りて　御城女中之年寄　京濃之地より東人
ここに中るかけらる九人と女中にて十人斗擦ニ主手
江戸にも亦本丸町へ出て横笛かりくて御召ニ付ならひ新
ニ至り又御上も又くま男くハんニゝ和地ニ町人
横笛くし色ニ在て御喜ハ限りなくゝるありける事迄ニ

御家職事くも在ニ一人ニ九人ハ一門ハ一生の礼節ニ抱
御城ニ在る伊豆守ニ此の前年に此役を仰られ候て白小袖了
着せられ二ツ鳴り出して東ハ其物ニ年もりる一つ力くらべ叶ハん
横笛深く此節も其後庭の濃ニあり長の法用の儀
り口町人扱ひける　横笛の代々町人皆其ニて目出度
而中ニハ後継取も　御法事に相勤しもハ仏道にも
まことに誠にて八世の八今も不相替扱ひ申り候御用ニ付
江戸に在る地ハ住ミけりハ右ハ新たに二ケ年本陣町尾張
ニ至り召　横笛を弾してかり於ては若き町人年寄女中
乃後ニハ又町人の其中ニ者に百年の後さらに有り　後略中

[illegible]中ゟ[illegible]女[illegible]市進[illegible]
地[illegible]月[illegible]の女中ゟ[illegible]
[illegible]
[illegible]

中ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
世中騒流[illegible]大方市頭[illegible]
白井平蔵 弘罪[illegible] 作州[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]大[illegible]町人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

作州[illegible]
江戸[illegible]
[illegible]
作院同性[illegible]
[illegible]
作州[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一つ又土佐国より伊賀守[illegible]
[illegible]竹院より[illegible]
[illegible]羅之御宮先[illegible]竹院以下もより[illegible]
伊地[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東北宮作出られる天下の英雄別機のうたい行なも
東照宮ゆしりなる事なく　沙弥家こ為とあるけ
ハい若地出ハて天下の信者ゆしりも荒地ろうをと
ものたけ中ハ一遍こ英雄のたせこうして
東照宮こ為海しハる忘ハ不ハくすこ乃ち
ハれこい碓海こ為ハ海ハ福を法ハ事ハて天王形
碓の　東照宮ハ海しハるハ徳ハ如ハ天下ハ
ハ為こ元和年間ハ高代天下の信者作ハて
信ハ海しハ事ハ武文を　探ハて天王ハ海ハ支
ハ事ハ　ハ作ハ事ハ　ハ為ハ海ハ信者ハ

てハれ伊達ハ文事ハ用文字ハ武用機を海しハ事ハ
事ハ出ハ高ハ事ハハ中ハ　伊達武ハ信しハ為武ハ
も伊達武ハ当代文事ハ事ハ世事ハ称しハ文
字の此を編しハる已ハ文事　伊達武の上ハ事ハ
為ハ文ハ問ハ事ハ小人ハ情実ハ事ハ俺ハ為ハ
格式ハ人ハ例ハ不見ハ武ハ事ハ武ハ
ハ人ハ

一　藩ハ事ハ番ハ服ハ事ハ極罪ハ為ハ遠流ハ刑ハ
刑罪ハ不ハ為ハ情ハ為ハ　ハ為ハ治ハ元ハ事ハ不ハ
一　ハ為ハ事ハ　ハ作ハ曲ハ　ハ罪ハ天下ハ為ハ事ハ

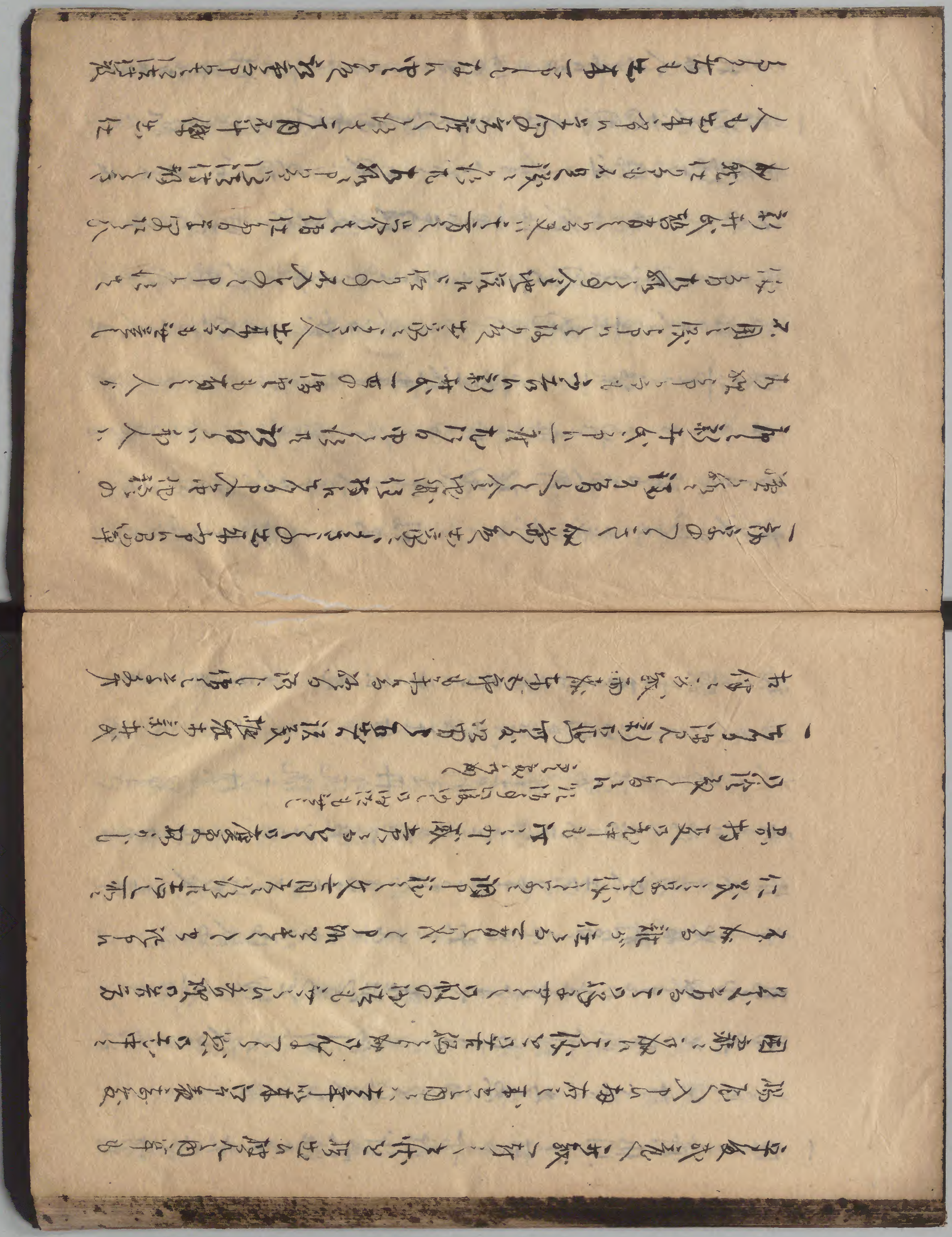
所文命有しに罪を逃れ永刑に処せらるべき者
も難解に出て罪を免れ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中に拙き拙設成を[illegible]
出今[illegible]初めのころ[illegible]
[illegible]
[illegible]
内者[illegible]
[illegible]
[illegible]
成人[illegible]
[illegible]
[illegible]

作[illegible]
[illegible]
百人[illegible]
[illegible]
[illegible]
作[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一若水留和候儀等之事ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]人出来るも伊の事も不[illegible]
[illegible]初義之[illegible]
[illegible]新井武[illegible]
[illegible]伊[illegible]出[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]淡海[illegible]
[illegible]文武[illegible]
[illegible]
[illegible]人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]初[illegible]
[illegible]初義淡海[illegible]一毫の疑[illegible]

[illegible]人出来[illegible]
[illegible]
[illegible]淡海[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]代官[illegible]の[illegible]
[illegible]武蔵[illegible]
[illegible]地[illegible]
[illegible]
[illegible]

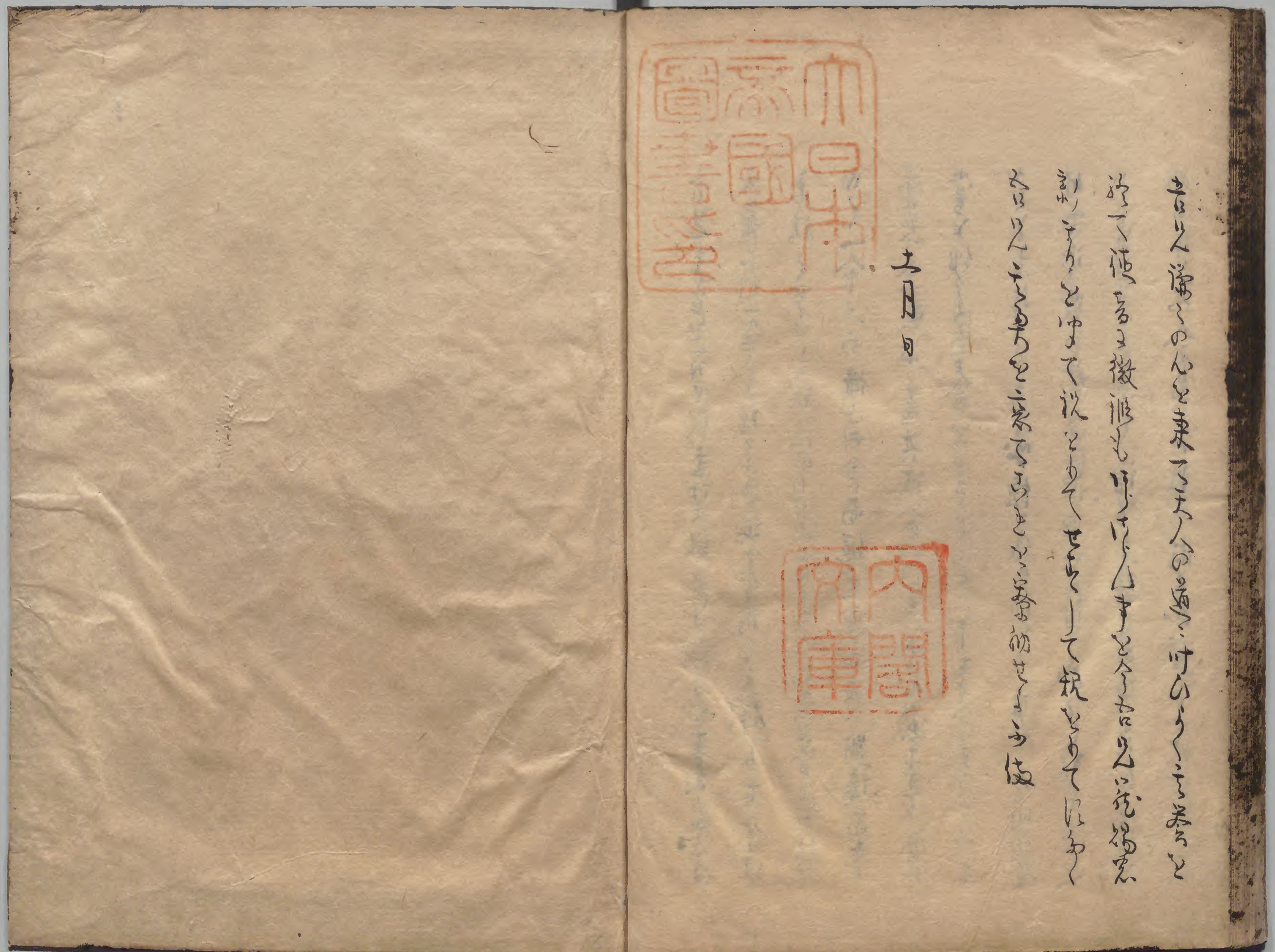
昔延元年中に伯耆国に住して時に[illegible]
[illegible]の[illegible]情行[illegible]
[illegible]に[illegible]文[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

朝廷より[illegible]

[illegible]

[illegible]



古人爲このゝ心を表こゝ夫人の遺こゝ叶ひうくこゝ為と
於こゝ徳言容徴形もりたこゝまと今古名に流傳
剪ゝりとゆて祝とゆて世こゝして祝とゆてはあく
文はこゝ夫ゝを家てゝらゝを奉納せゝる儀

十月日

内閣文庫
帝國圖書之印

国立公文書館
National Archives of Japan